

里山保全への取り組み

里山再生に挑む

福岡県直方市

金剛山もととり保全協議会



金剛山



1. 活動地の状況について

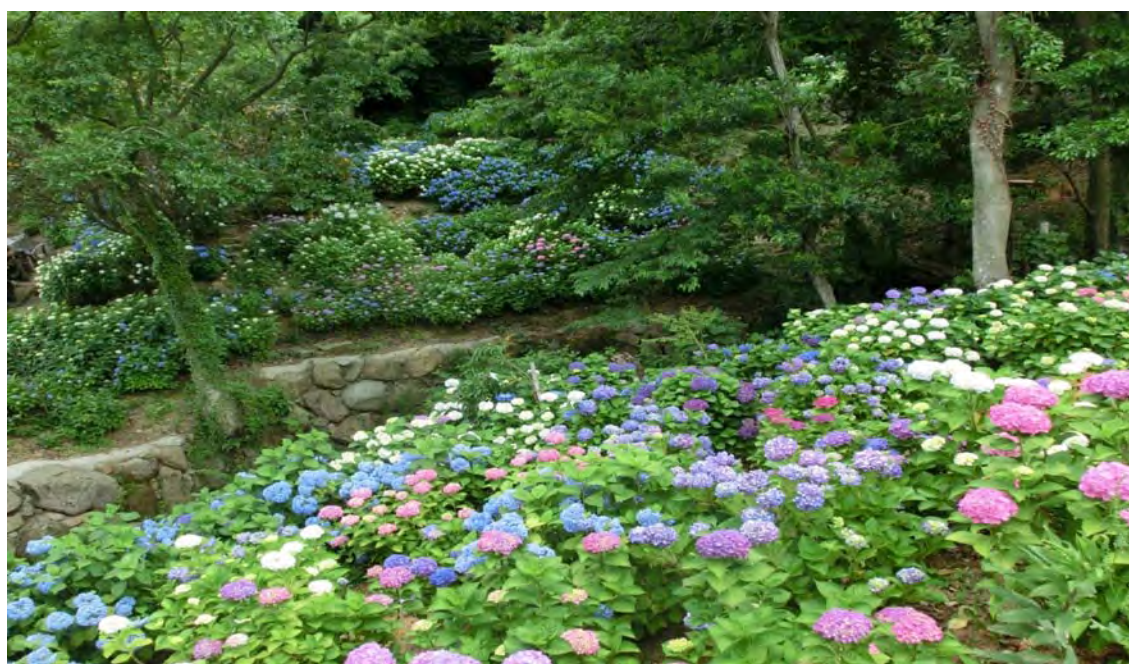
開拓記念碑



アジサイ園解放の様子



アジサイ園の様子



2. 活動の内容

金剛山もととり保全協議会構成
(12団体1個人 250名)

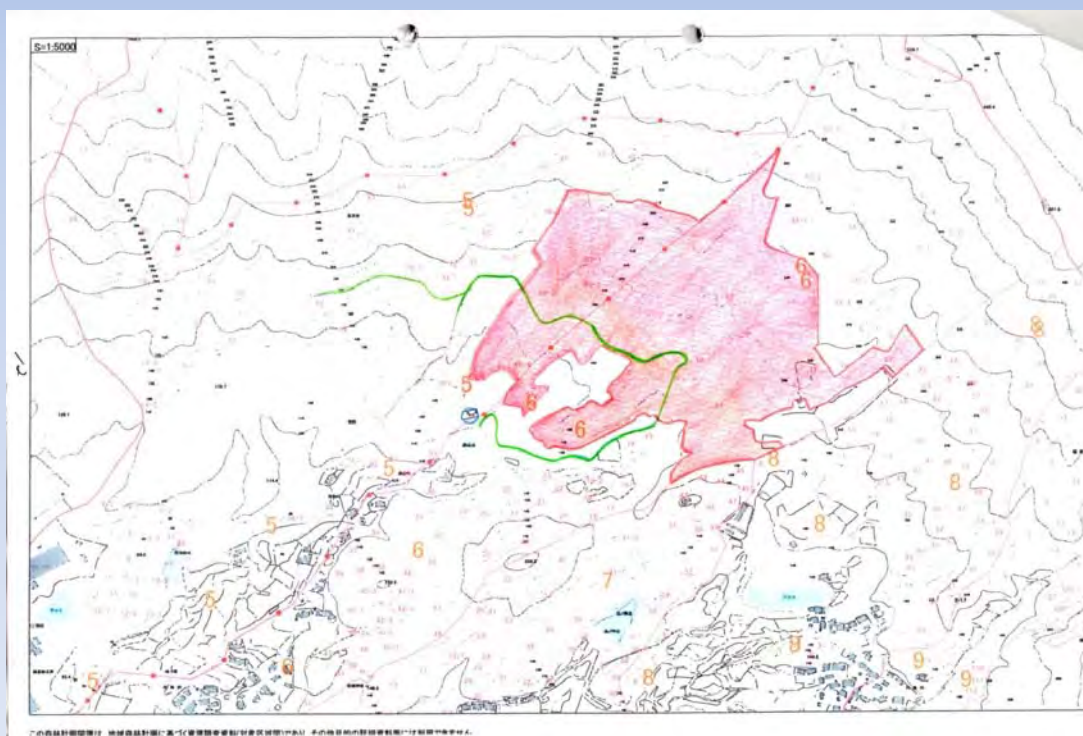
- ・ 会長 田丸 憲剛
- ・ 藤田丸地区の自然を守る会
- ・ なかよし会
- ・ 奥山あじさいの会
- ・ 里山の会
- ・ 古鷹取を伝える会
- ・ 直方川づくりの会
- ・ グランドゴルフの会
- ・ 直鞍造園組合
- ・ 登山同好会
- ・ オヤジの会
- ・ もととり倶楽部
- ・ NPO法人子育て仲間
- ・ 個人

活動概要

森林山村多面的機能発揮事業に係る

- 活動対象域 全 12ha
 - ・ 広葉樹・針葉樹等森林 3.3ha
 - ・ 竹林 3ha
 - ・ 侵入竹等 5.7ha
- 活動会員数・・・18名
 - 男性・・・・・・・14名
 - 女性・・・・・・・ 4名
- 会員平均年齢・・・71.1歳（2月1日現在）

金剛山麓の活動地域



侵入竹の状況（ハチク）



侵入竹の状況（ハチク）



侵入竹林の状況 2



活動前の耕作地跡の状況



姿を現した耕作跡地の石積み



木炭製造の様子



3. 活動の中で今後の取り組み

- 先ず、現状復帰への活動から

平成25年	竹林整備	約 1.0ha
	里山林保全	約 11ha
平成26年	竹林整備	約 3.0ha
	侵入竹除去	
	里山林保全	約 2.0ha
平成27年	竹林整備	約 4.5ha
	侵入竹除去	
	里山林保全	約 3.5ha
平成28年	竹林整備・除去	約 2.7ha
	里山林保全	約 7.7ha

(28年度は予定)

活動の経過 ①

(活動前)



(活動後)



活動の経過 ②

(活動前)



(活動後)



活動經過 ③

(活動前)



(活動後)



活動經過 ④

(活動前)



(活動後)



活動經過 ⑤

(活動前)



(活動後)



活動經過 ⑥

(活動前)



(活動後)



活動状況 ①

アオキ等低木の集積



低木の粉碎処理



活動状況 ②

侵入孟宗竹の処理



日の射し始めた雑木林



日の射す耕作地跡に咲かせたエビネ蘭



開発1年後に伸びた若竹の刈り払い作業



植樹の様子 ①

サクラ苗の植樹



紅葉植樹(市長の植樹風景)



植樹の様子 ②

梅苗・アジサイの植樹



植樹祭参加者の集合写真



4. 今後の課題と安全対策

○ 今後の課題

- ・人材の育成
 - 計画立案等統率できるリーダー
 - 事務業務の出来る人材確保
 - 活動実施日の拡大で地元協力者の迎え入れ
- ・安全対策
 - 安全ミーティングの充実
 - 安全装具の充実
 - 安全作業監視者の権限強化
 - ヒヤリハット報告とその検証
 - 健康状態の共有

安全対策後の粉砕機

クラッチの固定・ギアのスロッパー・緊急停止ボタンの増作



安全対策後の粉砕機 材料投入口に手が届かない壁の造設



5. 地域協議会の関わりと交付金について

○ 地域協議会の関わり

- ・ 活動地への訪問回数・・・ 26年度 2回 / 27年度 3回
- ・ 経理処理・ 活動報告書作成への助言
- ・ 安全作業・安全性確保に対する助言
- ・ 安全講習の開催

○ 交付金に望むこと

- ・ 年間を通して活動している組織に、交付金の交付回数を頻回に出来ないか？（例えば 2ヵ月毎）
- ・ 1ha当たりの取り組みの内容や質を評価すると良いのでは？
- ・ 交付金事業終了後、里山の維持管理を継続してゆくための、財源確保が大きな課題として残っている。

里山紅葉散策ウォーキング風景

平成26年10月



里山散策ハイキングの栗拾い 50年ぶりに姿を現した栗山での栗拾い



ご清聴、ありがとうございました



森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー 参加者アンケート

このたびは「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございます。今後の情報提供等に当たっての参考とさせていただきます。アンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

該当する箇所には○印をつけてください

【ご所属】 1、都道府県 2、地域協議会 3、その他（ ）

団体名： _____

氏名： _____

Q1：「基調講演 「3.11 後の森と付き合う作法を提案する ーマチの森林ボランティア・ムラの森林ボランティア」(山本 信次 岩手大学准教授)の感想を教えてください。

- 1、大変参考になった 2、参考になった 3、ふつう
4、あまり参考にならなかった 5、参考にならなかった

Q2：「活動組織による活動事例報告」の感想を教えてください

- 1、大変参考になった 2、参考になった 3、ふつう
4、あまり参考にならなかった 5、参考にならなかった

Q3：パネルディスカッションの感想を教えてください

- 1、大変参考になった 2、参考になった 3、ふつう
4、あまり参考にならなかった 5、参考にならなかった

Q4：参加してのご感想、ご意見を記入ください

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

※ご記入いただきました個人情報、本セミナーの運営管理ならびに平成27年度森林・山村多面的機能発揮対策検証事業に関わる請負業務の目的にのみ利用させていただきます。

**平成 27 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 第 1 回検討委員会
議事概要**

日 時：2015 年 10 月 21 日(水) 10:00-12:00

場 所：東京国際フォーラム G601 会議室

出席者：

検討委員

委員長 山本 信次 岩手大学農学部 准教授

委員 川尻 秀樹 岐阜県立森林文化アカデミー 教授

委員 北川 善一郎 長浜市 産業経済部 理事

委員 丹羽 健司 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー

委託者（林野庁）

赤堀 聡之 森林利用課 課長

今泉 裕治 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長

青木 正伸 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 課長補佐

松本 康裕 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興企画班 課長補佐

樋口 弘二 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 指導係長

事務局（公益財団法人 日本生態系協会）

松浦 重徳 グランドデザイン総合研究所 所長

亀田 聡 グランドデザイン総合研究所 上席主任研究員

野口 剛嗣 グランドデザイン総合研究所 主任研究員

開会

（各委員の挨拶より抜粋）

- 本事業は、地域の自発性に基づいて交付金を出す点で、省庁と地域との連携の仕方として非常に画期的である。
- 事業開始から 3 年を経て、活動組織が交付金に依存しすぎる体質になってしまうことを心配している。
- 事業開始から 3 年を経て、地域協議会の性質が団体の活動を制限する方向に変わってきている。
- 山本委員を検討委員会の委員長とする。

議事 1. 事業概要

議事 2. 地域協議会及び活動組織へのアンケート調査

（地域協議会へのアンケート調査；質問の内容や方向性について）

- 何をどう見直すためにアンケートを実施するのが、アンケート内容からはわからない。地域協議会の 3 年間の反省や要望がどのように反映されていくのかがわかるアンケートにしてほしい。
- 本アンケートは事業全体の見直しを行うために実施するものであるが、地域協議会が実施している業務を改善するための役割も果たさなければならない。
- 地域協議会の業務の改善のために、記述式アンケートや事例調査で 3 年間の反省や課題を聴取し、報告書でまとめる形にしてはどうか。
- 森林ボランティア等の団体を主眼に置いた質問内容になっているが、コミュニティの活性化のために活動している団体の実態もわかるような質問内容を検討していただきたい。
- 事例の抽出においては、優良でかつ汎用性がある事例を選定していただきたい。
- 優良活動組織の推薦については、地域協議会の推薦があっても必ずしも事例集に載るわけではないということに配慮した書き方をする。（事務局）
- 検討委員会の委員からも優良団体の推薦をいただきたい。（事務局）

（地域協議会へのアンケート調査；質問の量や手法について）

- 質問数が多いが、継続的な調査項目と新規の調査項目があるので、無理のない範囲で質問数の削減を検討する。
- 回答者の選択によって次にどの問いを読めばいいのか判るように配慮してほしい。
- 広報に関する問のインターネットについては、Web サイト等の受動的な発信方法と、メーリングリストや SNS 等の能動的な発信方法とで分けた方がよい。
広報に関する問については、地域協議会の発信によるものと活動組織同士の情報交換によるものを分離できるとよい。
- 選択肢の重みづけについて、回答者の実際の感覚により沿った回答を得られるような形式を検討する。（事務局）
- 選択肢を多数用意して地域協議会が重視している項目を選択してもらうのではなく、林野庁が重視している少数の項目を提示し、それぞれについて地域協議会がどの程度重視しているかを質問した方が政策にも反映させやすい。
- 今後の対策に関する問については、前半の選択肢と後半の選択肢の内容が異なるので、問題を分けた方がよい。

（活動組織へのアンケート調査；質問の内容や方向性について）

- 地域協議会へのアンケート調査の指摘と被る部分について、同様に取り扱う。

（活動組織へのアンケート調査；質問の量や手法について）

- 地域協議会へのアンケート調査の指摘と被る部分について、同様に取り扱う。
- 特に活動組織については、自由回答欄に記入しない回答者が多数発生してしまうことが予想されるので、選択式で全てを答えられる形の方が望ましい。（事務局）
- 森づくりへの参画人数を増やすことが本事業の目的であるので、その効果を測るために活動状況に関する問に平成 25 年度の項目を追加してほしい。
- 地域住民の参加状況の問いについて、活動組織が分かりやすい尋ね方を検討する。
- 今後の交付金に関する問いを、活動組織の側に立った目線の文言に変更してほしい。
- 活動組織が抱える問題を解決できたか否か、どのように解決したかを記述式で聴取してはどうか。

議事 3. その他

- 活動組織を支える役割を地域協議会が担うべきだが、それが出来ていないので活動組織同士で助け合う仕組みづくりを行っている所もある。
- 地域協議会の中にも意識や業務実態に差が生じている状況もある。
- 地域協議会は活動組織の活動を抑制するのではなく、促進する役割を担わなければならない。そのために、責任を持って活動組織を審査し、活動の良い所を見つけ出したり、同じ課題を持つ活動組織同士の交流を持たせたりするような姿勢が求められる。
- 地域協議会の意識を探るうえで、このような事例調査が重要と考える。

閉会

**平成 27 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 第 2 回検討委員会
議事概要**

日時：2015 年 12 月 16 日(水) 13 時 55 分～16 時 00 分

場所：東京国際フォーラム 5 階 G503 会議室

出席者：

検討委員

委員長 山本 信次 岩手大学農学部 准教授

委員 川尻 秀樹 岐阜県立森林文化アカデミー 教授

委員 北川 善一郎 長浜市 産業経済部 理事

委員 丹羽 健司 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー

委託者（林野庁）

赤堀 聡之 森林利用課 課長

今泉 裕治 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長

青木 正伸 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 課長補佐

松本 康裕 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興企画班 課長補佐

樋口 弘二 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 指導係長

事務局（公益財団法人 日本生態系協会）

松浦 重徳 グランドデザイン総合研究所 所長

亀田 聡 グランドデザイン総合研究所 上席主任研究員

野口 剛嗣 グランドデザイン総合研究所 主任研究員

1、開会

- ・ 本対策の平成 27 年度の執行状況は、予算額 25 億円だが、11 月末の現在で、24 億 6,000 万円となっている。執行率が 98%に達している。全国で 1,800 以上の団体に交付金を活用いただいている。

2、議事

2-1 地域協議会及び活動組織へのアンケート調査結果（速報）報告

- ・ 活動組織の話を聞くと事務手続きの煩雑さ、厳密さを求められることで苦勞している。
- ・ 地域協議会側の苦勞について、どのような理由による苦勞であるのかを見ていかねばならない。
- ・ 書類作成の苦勞や指導に関連して、地域協議会の回答と活動組織の回答の相関関係を見ていくとよい。アンケートの回答についていくつかの質問の回答を組み合わせる分析すれば、見えてくるものがあるのではないか。
- ・ アンケートでは書類作成で苦勞しているとお話が出ていたようだが、活動の記録は必要であり、活動組織自らのためにもなるのでやってもらいたい。
- ・ 活動組織は、所有者と協定を結んで作業をしている形になるが、できれば所有者にも活動状況の報告をしてもらいたい。
- ・ ご高齢の方で電子機器に慣れていない方が、書類作成で大変苦勞しているという話を聞くので、その辺をどのようにフォローできるか。
- ・ 写真撮影などの書類作成について、過度に細かく要求を行う地域協議会がある。
- ・ 本来、本交付金の活動は、チェーンソーが得意な人やパソコンが得意な人など、多様な人々を巻き込む活動であったはずである。どのようなやり方が良いかを推奨するのが良い。
- ・ 地域協議会の方も活動団体の方も、安全性を第一に考えてもらいたいと思う。補助を出すときも、活動実施の際にも、安全性を第一に考えていただく方向に導けるとよい。
- ・ アンケート分析の際には貸与などについては県の広さとの相関を見ると面白い
- ・ 活動団体数と指導件数の相関を見た方がよい。
- ・ 活動団体数が広がっている場所については、横の連携などのような協力状況や関係性についてみることであればわかりやすくなるかもしれない。
- ・ 交付金を知ったきっかけについて、「説明会」との回答があったが、その説明会をどのように知ったのかを、ヒアリング時等で把握できればよい。

2-2 ヒアリング先及び活動事例集について

（地域協議会）

- ・ 優良事例以外についてもヒアリングを実施した方がよい。
- ・ 指導回数が少ない、現地に行っている回数が少ないなどの協議会について、実際に聞いてみて、合理的な理由があるのであれば、どうしたらそういった状態になったのかを尋ねればよい。
- ・ 優良事例以外については、それぞれの協議会で事情が色々あるはずなので、何がネックになっているのか、何がハードルになっているのかを分析して、少しでも取り除け

るものであれば、取り除く努力をするという意味での参考にとすると良いと思う。

- ・ （地域協議会へのヒアリングについて）問題点があるなら、どうやって取り除けばいいのか、という視点で聞いてほしい。
- ・ 活動組織の事務処理に関連して、指導をうまくやっているところをピックアップしてほしい。
- ・ 全体としてみんなの負担が減っているところが良い地域協議会。
- ・ 指導については、回数と質の問題になる。質の方を聞くのがヒアリングの目的となる。

（活動組織）

- ・ 里山整備はしたけれども、これから利用の方にシフトしていくうえで、具体的にどうしたら良いのかというような相談がある。また、機能強化タイプの事例は少ない。このような事例があれば非常にありがたい。

（活動事例集）

- ・ 活動組織側から見て、地域協議会のサポートがどのように役立ったかのような話がにじみ出るとよい

2-3 その他

- ・ 2月10日に活動報告会を実施するので予定をあけておいてほしい。
- ・ 第3回の検討委員会は3月11日の午後に開催する予定。

**平成 27 年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 第 3 回検討委員会
議事概要**

日時：2016 年 3 月 11 日(金) 13 時 55 分～16 時 00 分

場所：東京国際フォーラム 4 階 G401 会議室

出席者：

検討委員

委員長 山本 信次 岩手大学農学部 准教授

委員 北川 善一郎 長浜市 産業経済部 理事

委員 丹羽 健司 特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー

<欠席> 委員 川尻 秀樹（岐阜県立森林文化アカデミー 教授）

委託者（林野庁）

赤堀 聡之 森林利用課 課長

今泉 裕治 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長

青木 正伸 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 課長補佐

樋口 弘二 森林利用課 山村振興・緑化推進室 山村振興指導班 指導係長

事務局（公益財団法人 日本生態系協会）

松浦 重徳 グランドデザイン総合研究所 所長

亀田 聡 グランドデザイン総合研究所 上席主任研究員

野口 剛嗣 グランドデザイン総合研究所 主任研究員

1、開会

- ・ 平成 28 年度予算は概算決定で 28 億 6,000 万円と多少の減額はあったが、本年度とほぼ同額を確保できた。
- ・ 2 月 10 日には普及セミナーを開催した。都道府県や地域協議会の担当職員間の情報共有の場として、大変意義があったと考えている。

2、議事

- ・ パネルディスカッションやヒアリングで把握した具体的な内容や工夫なども、第 2 章のまとめに入れ込んでどうか。
- ・ 今後求められる対応について、パネルディスカッションで報告された具体的な取り組みについても触れても良いと思う。

- ・ 地域協議会の独自の取り組みによってどのような問題が生じたのか、定性的な話でよいので報告書に入れると良い。文化の違いやバックボーンの違いが摩擦を生むことがありうる。良かれと思ったことが摩擦になりうる可能性があることを報告書に加えた方が良い。
- ・ 他の地域協議会や機関等と協力関係がうまくつukれない地域協議会は、活動組織のコーディネイトにも苦勞している面があると思う。
- ・ 保険に関する話についてはもう少し具体的に書いた方が良い。森林ボランティア保険では、賠償保険までカバーされていないことがあるので、その点などについても周知する方が良い。
- ・ 安全対策の内容をチェックリスト化する事は、交付金の姿勢をしっかりと示す意味で良い。
- ・ 求められる対応の中で安全対策については、義務化についてきっちり言った方が良いのではないか。
- ・ 安全対策装備は補助金で真っ先に準備すべきものである。それを怠ると事故が起きるので、強く言うことを心がけてもよい。
- ・ 安全の話は非常に重要。平成 28 年度事業は既に動き始めているので、平成 29 年度以降の交付金の要件の中に書き込めるかが課題。
- ・ 交付金の要件を書き込むと新たな事務作業が増え、書かないと、それがやらなくてよいことの理由になってしまうので、そのバランスが重要になる。
- ・ 作業を行うのであれば装備の導入の優先順位を考慮する必要がある。安全確保が最優先である旨を書いたほうが良い。
- ・ 地域コミュニティ型の活動組織が応募するケースでは書類作成がスムーズでないパターンが多いように思う。そうした活動組織に対して、地域協議会が相談に乗ってほしい旨を触れて欲しい。
- ・ 地域協議会がコーディネイト力を発揮し、メンバーの出会いの場をつくることも重要。
- ・ マンパワーについて、森林に詳しくない人も参加しているので、これまで常識とかわられていたことも指導しなければならないケースもでてくるのではないかな。
- ・ どのような森を作っていくのか目標林型が決まっていれば、その為の適切な手段が考えられる。どのような森をつくるのかという目標を専門家が押し付けるのは良くないが、関係者間で決めた目標林型に対する適切な手段については専門家が指導できる。目標・計画が適切かということとそのための手段が適切かどうかを切り分けて議論することが重要。
- ・ 第 3 章のまとめにも、アンケートやヒアリングで得た具体的な内容を加えていくとよい。
- ・ 活動組織の事例集だけでなく、地域協議会の事例集もあるとよい。
- ・ アンケート結果やパネルディスカッションでの議論の内容をまとめた、地域協議会のグッドプラクティスがあればとよいと思った。

- ・ 出来るだけ自立を目指していくことも重要であるが、すべての団体で実現できるわけではないので、村で人とのかかわりを通じて発揮される公共性の重要性についてもふれていくとよい。
- ・ 林業・森林保全など様々な場で、女性の方が参加していける仕組みづくりができればよい。
- ・ 本検討委員会の議論を受けて行う報告書案の記述等の変更については、委員長預かりとし、委員長と林野庁、事務局で確認・修正を行う。

平成 27 年度
森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業
報告書

平成 28 年 3 月
林 野 庁
